

学科名	学年	授業のタイトル (科目名)	
工業専門課程 情報処理システム科	1	天体の科学	
授業の種類	授業担当者	実務経験	
<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	中西 秀夫	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
[実務経験歴]			
<p>民間の気象会社で予報業務を23年担当。 企業向けの防災セミナーを担当。</p>			
単位数 (授業の回数)	時間数☒	配当時期	必修・選択
2 単位 (30 回)	60 時間	<input type="radio"/> 前期 <input type="radio"/> 後期 <input checked="" type="radio"/> 通年	<input type="radio"/> 必修 <input checked="" type="radio"/> 選択
[授業の目的・ねらい]			
<p>気象現象の根源となる太陽と地球の関係を理解する。</p>			
[授業全体の内容の概要]			
<p>①地球の誕生について ②太陽系と天体 ③太陽活動と太陽放射とそのゆくえ ④地球放射</p>			
[授業終了時の達成課題(到達目標)]			
<p>サーバプログラムとクライアントプログラムの連携の基本的な技術を身に付ける。</p>			
[準備学習の具体的な内容]			
<p>毎授業ごとに復習の有無の確認を行い、講義・実習を進める。授業終了時には、講義内容の確認と次回の授業内容を説明し、復習・予習ができるようにする。また、長期休みの時は、課題を実施する。</p>			
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び評価の基準]	
<p>使用テキスト プリント教材(日本コンピュータ専門学校)</p> <p>参考文献 必要に応じて授業の中で紹介する。</p>		<p>定期試験と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。 ・試験の点数は60点以上を合格点とする。 ・全出席日数の4分の3以上の出席が必要。</p> <p>評価基準 定期試験80%、平常点(出席、講義の参加度)20%とする。</p>	
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1回	地球の誕生		
2回	太陽系の天体		
3回	太陽		
4回	太陽活動と太陽放射		
5回	自転とその証拠		

6回	公転とその証拠
7回	太陽放射のエネルギー
8回	まとめと振り返り
9回	太陽定数
10回	地球が受ける太陽放射エネルギー量の変化
11回	地球放射のエネルギー
12回	地球全体の熱収支
13回	温室効果
14回	電磁波の種類
15回	まとめと振り返り
16回	熱輸送とその手段
17回	太陽放射のエネルギーの緯度による違い
18回	熱収支の緯度による違い
19回	熱輸送とその手段①
20回	熱輸送とその手段②
21回	熱輸送とその手段③
22回	まとめと振り返り
23回	放射と各法則①
24回	放射と各法則②
25回	放射と各法則③
26回	放射平衡温度の計算
27回	放射対流平衡
28回	放射の散乱①
29回	放射の散乱②
30回	まとめと振り返り